

# 第7章

## ビジョンの推進に向けて

- 1 連携と役割分担による推進
- 2 推進体制

## 1 連携と役割分担による推進

工業事業者を取り巻く環境がますます大きく変化すると予想されるなか、本ビジョンに掲げられた基本目標を実現するためには、行政だけでなく、地域全体で基本目標を共有し、一体となって取り組んでいくことが必要となる。

本ビジョンの推進にあたっては、産業活動の主体である工業事業者をはじめとして、行政、商工団体、大学、公的支援機関などが相互に協力・連携しあいながら、地域工業の特性や実情を踏まえて、柔軟かつ適切に対応し、各主体が、次のような役割を果たしていく。

### 各主体に求められる役割

#### 工業事業者

地域産業の主役である工業事業者においては、自らの発展が地域産業を活性化し、豊かな市民生活や魅力あるまちづくりにつながることを認識するとともに、強みを伸ばしながら、新しい事業に積極的に挑戦するなど、持続可能な成長に向けた自助努力を続けていくことが求められる。

#### 支援機関・団体、大学等

それぞれが得意とする専門分野を中心に、支援機能の充実と強化を図り、工業事業者の研究開発、マーケティング、人材育成などの機能を補完していくことが期待される。

#### 行政

工業事業者の自助努力を促し、企業ニーズや地域の現状を的確に把握するとともに、異業種交流をはじめとする企業間交流の場の提供、(仮)富士市産業支援センターの整備など支援の充実を図り、事業活動しやすい環境づくりを推進する。

また、工業事業者に対する各支援機関の支援事業が、より効果的なものになるように調整を図るとともに、各施策の適切な進行管理を行い、今後の工業事業者を取り巻く環境の変化を勘案しながら、必要に応じて適宜施策の見直しに努める。

さらに、国及び県との連携を強化し、各種制度等の情報収集に努め、本地域での国や県の制度の活用を促進する。

## 2 推進体制

本ビジョンは、長期的な工業振興の方向性を示すものである。しかしながら、近年における社会・経済情勢の目まぐるしい変化を勘案すると、本ビジョンの方向性の軌道修正が求められる可能性も十分に考えられる。このため、環境の変化に対し、迅速かつ柔軟に対応することが、本ビジョンの実効性を高めるポイントとなる。

そこで、本ビジョンでは、「計画を立てて（Plan）、実行し（Do）、一定期間経過後に評価をすることで（Check）、改善策を検討する（Action）」という工程を継続的に繰り返す「マネジメントサイクル」の仕組み・考え方を取り入れて、効果的かつ効率的な推進を目指していく。さらに、マネジメントサイクルによる評価と改善を繰り返すなかで、5年を目途に、本ビジョンの内容を総括的に精査し、施策等の見直しを図っていくこととする。

そのため、本ビジョンの進行管理を一元的に行うとともに、企業のニーズを的確に把握し、事業環境の変化に対して迅速かつ柔軟に対応していくため、産業界や学識経験者、市民、産業支援機関等で構成する「(仮)富士市工業振興会議」を設置し、効果的な事業推進の実現を図ることとする。

### (仮)富士市工業振興会議

#### < 事業内容（案） >

施策の進行管理と評価、課題の検討、企業ニーズの把握

#### < 構成（案） >

工業事業者・学識経験者・市民・産業支援機関 など